

三徳山

概要

三徳山は、船上山や大山と共に、伯耆の国（現在の鳥取県西部）の山岳仏教の霊山の1つと呼ばれています。高さ900mのこの山は神のいる場所として崇められ、聖地として扱われていたため、自然が大事に守られています。山のふもとには706年に修行者のために創設された三佛寺があります。そこから延びる修行のための厳しい道は、億人であり1000年以上前にさかのぼる国宝である、投入堂に続いています。この小さな木造の寺院は、断崖絶壁の浅い張り出しの下にしがみついている、ときには建造物と同じくらい岩のようにも見えます。投入堂の不思議な姿は、寺院近くの望遠鏡を通して見ることができます。